THE ENSEMBLE LARK

PRESENTS

CONCERT IN FOUR CONCERTOS

アンサンブル　ラーク

協奏曲の夕べ

47・6・10（土）6：30PM

1972

共済ホール（札幌市北４条西１丁目共済ビル内）

後　援

日本弦楽指導者協会　北海道教育委員会

札幌市教育委員会　北海道新聞社

PART I

1. Georg Friedrich Händel :

Organ Concerto No. 2 Bflat major Op. 4 No. 2

A tempo ordinario e staccato

Allegro

Adagio

Allegro

Organ Solo : Setsuko SONODA

(YAMAHA Electone Model F2)

Cond. : Tetsuro ANZAI

2. A. Vivaldi :

Concerto for Viola d'amore and Guitar(Lute) D minor

Allegro Op. 63 No. 2

Largo

Allegro

Guitar Solo : Osamu HIRASA

Violin Solo : Yoshihiro KITAGO

(for Viola d'amore)

Cond. : Chikafumi MIYAZAKI

INTERMISSION

第 Ⅰ 部

1．G．F．ヘンデル：オルガン協奏曲　第2番　変ロ長調　作品4　第2

通常の速さで，歯切れよく

アレグロ

アダージオ

アレグロ

オルガン独奏：園田節子
（ヤマハ・エレクトーン　F2 型使用）
指揮：安斎哲郎

2．A．ビバルディ：ビオラ・ダモーレとギター(リュート)のための協奏曲
二短調　作品63　第2

アレグロ

ラルーゴ

アレグロ

ギター独奏：平佐　修
バイオリン（ビオラ・ダモーレ）独奏：北郷義弘
指揮：宮崎親史

休　憩

お飲物と．軽食の店　お気軽にどうぞ！

力

さっぽろ南5，西5TEL 511－8650

PART Ⅱ

3. Johann Sebastian Bach :

Concerto for Two Violins D minor BWV 1043

Vivace

Largo ma non tanto

Allegro

Violin Solo I : Shun-ichi ODANI

Violin Solo II : Tetsuya OHASHI

Cond. : Chikafumi MIYAZAKI

4. Wolfgang Amadius Mozart :

Piano Concerto No. 12 A major K. 414

Allegro

Andante

Allegretto

Piano Solo : Yuriko ODANI

Cond. : Chikafumi MIYAZAKI

専門 慶弔用花籠・花輪・舞台展示社内装飾

新鮮な花材・優美な技術

定評ある　誠実迅速をモットーとして——

株式会社 大通り生花店

北大通西17丁目　TEL 621−4301(代)〜3

諸官庁・会社・新聞社・ホール御用達

第 Ⅱ 部

3．J．S．バッハ：2台のバイオリンのための協奏曲　ニ短調　BWV　1043

ビバーチェ

ラルゴ・マ・ノン・タント

アレグロ

バイオリン独奏Ⅰ：小谷俊一

バイオリン独奏Ⅱ：大橋鉄也

指　揮：宮崎親史

4．W．A．モツアルト：ピアノ協奏曲　第12番　イ長調　K　414

アレグロ

アンダンテ

アレグレット

ピアノ独奏：小谷百合子

指揮：宮 崎 親 史

》ボタン電話・家庭電器製品販売《

信用第一ナショナルショップ

有限会社 **加藤電気商会**

札幌市南6条西9丁目　☎ 521－2409

プログラム　ノート (1)

今回の演奏会でははからずも後期バロックの三巨匠、バッハ、ヘンデル、ビバルディとそれにモツアルトが顔を合わせて協奏曲作品を競うことになった。独奏楽器の点でもバイオリンのほかにオルガン、ギター、ピアノなど、アンサンブル・ラークの演奏会としてははじめての多彩なとり合わせとなった。たゞ、ビエラ・ダモーレは日本にも無いわけではないが,私達の手の届くところには無いため,バイオリンで代用せざるを得なかったのは残念である。同様に，いかに現代の電子工学の進歩がめざましいとは云え、電子オルガンではあき足らなく思う人もいるかも知れないが、さいわい日本楽器の御好意により、当地としては最高の型のエレクトーンを使用させていたゞけることになった。それぞれの独奏者として札幌の若い世代を代表するすぐれた人々を私達の仲間にもつことが出来たことは大変よろこばしく，聴衆とともにこのことを誇りたい。

1．G．F．ヘンデル：オルガン協奏曲　第２番　変ロ長調　作品４　第２

ヘンデルはバッハと同年に，バッハの生地からほど近いハレに生まれたが，この２人の大作曲家兼名オルガン奏者は互に一生相まみえることはなかった。バッハが終生ドイツ国内にとゞまって、教会と宮庭のために地味な演奏、作曲、教育に終始したのに対し、ヘンデルはドイツ、イタリヤ、英国と活躍の舞台も国際的で、しかも主としてオペラやオラトリオなどの劇場音楽の作家として派手な活躍をするなど、この両人はあらゆる点で対照的である。その作風もバッハの地味な重厚さに比べると、ヘンデルはイタリヤ風の透明な和声、　明るい旋律，陽気なリズムを特徴とするが，それでもドイツ人特有のち密な構成美を兼ね備えていることは見逃せない。これが同時代に同じ英国を舞台にしたイタリヤ人作曲家ジエミニアーニにくらべて、ヘンデルの名を不朽のものにしたゆえんであろう。

ヘンデルはパイプオルガンと管弦楽のための協奏曲を６曲ずつ３組、合計18曲残しているが、これらはいずれも彼のオラトリオ上演の際に幕間の音楽として、彼自身が鍵盤の前に坐って管弦楽を指揮しながら演奏するために作られたものである。このうち作品４の６曲は1735年頃から演奏されはじめ、1738年にまとめて出版された。当時の劇場音楽作家がしばしばしたように、ヘンデルも時折り同じ楽想を別の曲で反復使用したことがあり、たとえば有名な「水上の音楽」や「花火の音楽」の中のいくつかの楽章はイタリヤ時代のコンチェルトにさかのぼることが出来る。このオルガン協奏曲第２番の序奏部も同様に彼がイタリヤ時代に作曲したモテットの一部が転用されたものであり、第２楽章のテーマも作品２のトリオソナタからの転用である。曲は全奏の短い序奏部の第１楽章につゞいて軽快なリズムの第２楽章に入り、型の如く総奏と独奏が交互にくり返されるが、同じ動機のくり返しの中にも微妙なリズムの展開と緊張を含んでいるのは、やはりヘンデルならではの味わいと云えよう。短いアダージオの第３楽章ののちに、メヌエットのリズムによる愛らしい変奏曲の第４楽章によって曲が閉じられる。

2．A．ビバルディ：ビオラ・ダモーレとギター（リュート）のための協奏曲　ニ短調　作品63　第２

現在の形のバイオリン属の楽器が完成される前に広く使われていたヴィオール属の楽器は大小４種類ほどあり、バイオリン属との違いは胴の裏板がふくらみのない平板であること、表板と裏板とを支える魂柱がないこと、表板のf 字孔がC 字形であること、棹の指板にギターやマンドリンのようなフレットがあること、弦は６弦で、３度か４度に調弦（バイオリン属は４弦で５度に調弦）されたことなどである。ビオラ・ダモーレはこのヴィオール属とバイオリン属との中間に位する楽器で、ヴィオール属に似ているが指板にフレットが無く、６弦で、ほかに演奏には直接用いられない共鳴弦が数本ついており、調弦は３度か４度であるが曲により自由に調弦を

新　鮮・江戸前

秀　鮨

札幌市南３条西８丁目西向　☎ 251－6047　河　原　秀　忠

プログラム　ノート (2)

変えることが出来た。「愛のビオラ」という名のごとく特有の甘さをもったやわらかい音色の楽器である。もっとも、古典音楽研究家のドルメッチによれば、「愛のビオラ」(Viola d'amore)というのは実はあて字で、本来の語源はViola da Moreすなわち「ムーア人のビオラ」が正しいということである。この楽器はすでに絶滅してしまっているので現在ではバイオリンで演奏されるが、調弦が異るためバイオリンでは演奏困難な複音があり、また弦の張力のちがいから、この楽器特有の甘くやわらかい音色をバイオリンで再現することは相当にむずかしい。一方リュートはギターの前身ともいえる楽器(リュート演奏家トマス・メースによればギターはリュートのなれの果て)で、大きさもほゞ同じであるが棹が短く、胴はマンドリンに似て丸味があり、弦は11本(2本ずつ同音に調律された5組と、ほかに1本の最高弦)あり、他に数本の共鳴弦をもったものもある。この楽器は演奏が大変むずかしく、音量も小さいためギターにとって代られることになったが、一時は大変広く用いられた楽器で、この楽器の大型のものはテオルバと呼ばれ、管弦楽や室内楽の通奏低音部としてハープシコードよりも広く使われていたことがあるらしい。ビバルディ時代のイタリヤではすでにすたれ始めてはいたが、なおハープシコードを補強する意味ではかなり用いられていたと思われる。

ビバルディは現在わかっている460曲ばかりの協奏曲の中で、バイオリンのほかに当時用いられた殆んどありとあらゆる楽器を独奏用に起用しており、ビオラ・ダモーレ協奏曲は8曲、リュートまたはテオルバと他の弦楽器との組合わせのものも数曲ある。この「ビオラ・ダモーレとリュートのための協奏曲」もこうした珍らしい編成の協奏曲のひとつである。

記録によれば、ポーランド王兼ザクセン選定候の息子フリードリッヒ・クリスチァン公がベネチアを訪問した折、これを歓迎して1740年3月21日に上演されたビバルディのカンタータ「ミューズの合唱隊」の第1部の終の音楽としてこの曲が使用された。この祭典のあと2ケ月ほど、ビバルディが過去の作品を売却して代金を受取ったいくつかの文書を最後に、彼の名はベネチアのあらるゆ記録から姿を消し、翌年7月28日、無一文のまゝウイーンで客死して貧困者のための共同墓地に葬られるまで、彼の消息は全くわからない。つまりこの曲は彼の作品の最後ではないにしても、最晩年の作品の一つであろうと考えられる。

曲は型のごとく3楽章制の独奏協奏曲の形式をとり、ギター(リュート)のパートは演奏者の即興的な自由なリアリゼーションを許したらしく、かなり簡単に書かれているが、この両独奉楽器の、音量は弱いが優雅な音色のとり合わせはさぞかしのびやかであっただろうと想像されるのである。

3．J．S．バッハ：2台のバイオリンのための協奏曲　　ニ短調　BWV 1043

バッハは1717年にワイマールの宮廷を辞任してケーテンの宮廷楽長に就任したが、このことは彼の作曲活動にとって予想外に大きな転機をもたらすことになった。それというのも、これまでのバッハはルター派の宗教音楽の作曲と演奏が第一の仕事で、そのために絶大な努力を傾けざるを得なかったのだが、ケーテンの宮廷はカルビン派であったため教会音楽には冷淡で、バッハはその方面の厄介な義務に煩わされず、その全精力を心おきなく弟子の教育や室内楽、管弦楽などの器楽作品の作曲に注ぎこむことが出来たのである。現在ピアノ学習者の必修書となっている「フランス組曲」「イギリス組曲」「インベンション」をはじめ、「平均率クラフィーア曲集」「無伴奏バイオリン組曲」「ブランデンブルグ協奏曲」など、多くの珠玉のような器楽作品がこの時期の産物である。このケーテン時代5年半の間に作られた二重協奏曲としては、このBWV1043のほかに、アンサンブル・ラークが第1回の演奏会でとり上げた「バイオリンとオーボエのための協奏曲、ニ短調、BWV 1060a」がある。他の追従を許さぬバッハの対位法的技法の真価を発揮する手段としてはオルガンと共に弦楽合奏ほどふさわしいものは無いし、とくに複数の独奏部をもつ編成はその点で最も彼にふさわしい編成であったと云える。

バイオリン
ビオラ
チェロ
バ弓
製作
修理
日本弦楽器製作者協会員
長町朋行
札幌市南8条西22丁目
電話 (561) 1908番(翠晃荘)

プログラム　ノート (3)

第１楽章は厳格なフーガから後年のソナタ形式への橋渡しとなる構成美を誇っているし、第２楽章も終楽章もその対位法的な技法は鍵盤のための「平均率」とならんで対位法音楽の聖書ともいえる作品である。しかしバッハの特徴をこのような対位法的構成美とブクステフーデ風の敬虔さのみにあると誤解する人がいたら、この曲の第２楽章の夢みるような美しい旋律ののびやかなからみ合いをきいてみるとよい。百年後に花さいたロマン派をはるかに先取りしたロマン主義のかおりがすでにそこに満ちていることを知るであろう。また終楽章の溌らつたるリズムの中に同度のカノンとしてあらわれる第２主題の比類のない美しさをもきいてみるとよい。弱拍の高音が可憐な美しさを表現するのにふさわしい手段であることは旋律学の常識であるが、急速楽章のこのはずむようなリズムの中でそれをなし得た作曲家は恐らく古今を通じて他にはないのではあるまいか。

４．Ｗ．Ａ．モツァルト：ピアノ協奏曲　第12番　イ長調　Ｋ 414

演奏旅行と各地の楽風を吸収するための修業とを兼ねて、若き日のモツァルトは欧州各地の旅を続けていたが、1781年末、24才の時、やはりひと時の旅人のつもりでウィーンについた。ところが彼のパトロンであったザルツブルグ大司教といさかいを起してしまった為に、彼はパトロンと絶縁して思いがけなくついのすみかとしてこの都にその後の10年あまりを暮すことになった。この事は生活の財政的基盤との絶縁をも意味したから、それ以後の彼はもっぱら作品の売上げと演奏会収入とで自分自身の生活をやりくりしたければならないことになった。こうして1782年から翌年にかけて、３曲のピアノ協奏曲(第11番　K413から第13番　K415まで)による予約演奏会が計画され、この曲が作られたのである。この３曲のうち、Ｋ 414がまっ先に完成したが、現存する資料によればなぜか実際にはこの演奏会ではこの曲は演奏されなかったらしい。円熟期以後のモツァルトにとってイ長調という調性はある意味できわめて大切な調性であり、この曲の他に「ピアノ協奏曲第23番、K448」「弦楽四重奏曲第18番　K526」「クラリネット五重奏曲　K581」など6曲にすぎないが、いずれも第１級の傑作で、共通した特徴として明るさの中にも何か一脈の愁いを含んだおだやかな温かさが感じられる曲ばかりである。曲は３楽章から成り、弦楽合奏のほかにオーボエ、ホルン各２で編成されているが、管楽器は省略してもよいように作られており、さらに出版された楽譜の前書きによれば、弦の各部をそれぞれ１台にしてピアノ五重奏曲として演奏してもよいことになっている。

第１楽章アレグロ、イ長調、4/4拍子は、いわゆるロンバルド風リズムの第１主題と、やゝ行進曲風の第２主題につゞいて、優美でやゝメランコリックな、とけるような甘さをもった第３主題がチエロのピッチカートの上に現われたのち、はじめてピアノが加わる。情熱的な展開部とやゝ圧縮された再現部のあとに続く独奏ピアノのカデンツアはモツァルト自筆のものが２種類残されているが、第３主題にもとずく短い方のカデンツアを好むピアニストが多いようである。

第２楽章アンダンテ、ニ長調3/4拍子は、明朗な曲が多いモツァルトのニ長調としては珍らしく、思いにふけるような厳しゅくなムードをもっている。主題の後半が前楽章の第１主題とよく似ている点が興味ふかい。

第３楽章アレグレット、イ長調2/4拍子は、ガボット風の、トリルの多い第１主題で幕明きされるロンドであるが、トリルの効果を生かすためにアレグロやプレストではなく、アレグレットで書かれている。形式が完全な三部形式のロンドでなく、短縮された二部形式をとっているのはそのための必然と云えるだろう。前述の予約演奏会のための３曲中ではこの曲がいち早く完成されながら、実際には演奏された形跡がないのは、当時としてはやゝ形破りないくつかの点、たとえば第１、第２両楽章に共通の動機を用いた点や、終楽章ロンドの構成上の問題などのためかと思われるが、現在では却ってこのイ長調がこれらの３曲中でもっとも愛好者が多いことは、示唆にとんだ歴史の流れというべきであろうか。

安　斎　哲　郎

CARDINAL

珈琲パーラー　南大通西３　241－2402・2429

独奏者の横顔

園田節子：長崎の産。ピアノを中村一郎氏、オルガンを道志郎氏に師事。長崎大学教育学部音楽課程を卒業後札幌に在住。目下後進の指導と花婿候補の物色とに精励中。希望者はアンサンブル・ラーク事務所まで。

北郷義弘：札幌生まれ。本業物理学者。バイオリンを宮崎親史氏に師事。地味だが正確なテクニックはどことなく彼の本業をそのまゝあらわしているようでもあるが、それでいてウタとしての勘所は適確に押えているのは彼のもち味の長所であろう。

平佐　修：生粋のドサンコ。生まれ乍らの美しい音色（楽器も高価だが）とすぐれたテクニック、並はずれた芸術性を買われて、ウィーンから武者修業の誘いがかゝっている。目下そのための金づる物色中。これも希望者は本団事務所まで。

小谷俊一：札幌生まれ。宮崎塾生えぬきの逸物だが、（進路指導の誤りから）音楽を本業としないことになったのは、北海道にとって大損失というべきだろう。とりわけ、巧まざるロマンの香気に満ちた旋律の歌い上げ方の美事さは、プロの演奏家にも類を求めることは稀だろう。本業内科医。

大橋鉄也：札幌生まれ。宮崎塾四天王の一人。欧米にも稀な体格に恵まれ、片手の中にかくれてしまう程の楽器の中から正確なテクニックがほとばしり出るのも彼の強味の一面であろう。音楽好きの程度は無類で、彼に合奏の手合わせを申込まれて持久力において彼をしのぎ得た者はいない。本業エンジニアの卵。

小谷百合子：札幌生まれ。桐朋学園大学ピアノ科卒業。遠藤道子氏，小川京子氏に師事。持ち前のすぐれたテクニックに実兄小谷俊一のもつ甘さが加わったら鬼に金棒であろう。今後の活躍が期待される新進ピアニストである。

指揮者の横顔

宮崎親史：今さら紹介するまでもあるまい。北海道の弦楽演奏および指導の草分けの一人。本団会長、日本弦楽指導者協会理事、同北海道支部理事長、NHK客員、etc、バロック、ロマン派、現代音楽はもとより、興に乗れば（つまりアルコールが加われば）タンゴから枯れすすきに至るまで広いレパートリーの柔軟さを持つ反面、指導者としては厳格で、とくに生徒の音楽性の開拓には定評をもっている。もう一面の彼は渓流釣りのベテラン。北海道魚拓連盟理事長。札幌魚拓研究会会長。その音楽の如く詩情あふれる芸術的な魚拓の制作家であり，またウイットに富んだ文章家として知る人ぞ知る（知らない人は知らない）随筆家でもある。

安斎哲郎：「指揮なんて、音を出さないでたゞ棒を振り廻せばいゝんだから誰にでも出来るさ」と思っている人が意外に多いのは、こんな指揮者がまかり通っているからかな。東京の産。昭和23年から札幌在住。あまた楽器をいじっているうちに、指揮などもやらされるようになってからもう久しい。暖かみに乏しいと評してくれる人もいる反面、ネチネチとクドすぎると評する人もいるのは、それはそれなりに個性の一面ずつを幾分か表現するのに成功しているのかも知れないとうぬぼれている。本業内科医兼医大教員。音楽史などのガクを買われて本団の末席に連なる。（ＴＡ記）

ご婚礼・ご進学・または新

美麗壁掛温度計・家庭用秤・体重計をどうぞ

札幌メートル商会

060 札幌市南1．東1．☎ (011) 221－2862

本道唯一の専門店としてあらゆる度量衡計量器をとり揃えております

メンバーリスト

▶バイオリン

三浦和男
磯地英樹
小谷俊一
北郷義弘
小泉真樹
大橋鉄也
横内美恵
林ゆき子
富岡雅美
吉田早苗
梅木孝昭
山本信彦
浦野純子
三浦浩樹
中井祐子
●小林英三郎

▶ビオラ

石橋不二人
渡辺啓吾
細岡栄三
高島巌
岩崎正隆
●柏原茂雄

▶チエロ

安斉哲郎
木村恒孝
片桐謙哉
青木義人
川井英子

▶コントラバス

芳我幸雄

▶フルート

吉泉清志

▶オーボエ

堤耀広
高橋裕

▶ホルン

●肥田野豊
●高泉勝

▶オルガン

園田節子

▶ギター

平佐修

▶指揮

安斉哲郎
宮崎親史

顧問 西田直道　後援会長 小谷武彦

うちみ・ねんざ・筋肉痛に

ペタン—シップの 3枚入・10枚入

ペタンと貼るだけの分厚いシップ薬です。ハレ・コリ・痛み・熱をとり…長時間シットリ効力持続型です。

パテックス®

こんな時にもペタン—シップ
足腰の疲れ/ 肩こり/ 寝ちがえ/ 頸こり/ 神経痛/ 関節炎/ ロイマチス/ 急・慢性気管支炎/ 耳下腺炎

純良医薬 第一製薬

次 回 予 告

ビバルデイ　：4台のバイオリンのための協奏曲
ドニゼッテイ：イングリッシュホルン協奏曲
モーツアルト：セレナーデ　ト長調
モ　レ　ー　：小交響曲　　その他

団 員 募 集

同好の士を求めます　　希望者は下記へ

教 室 案 内

（初心者から専門家コースまで）

宮崎バイオリン教室　札幌市南区南31条西10丁目　〒581—1257
苫小牧分教所　苫小牧市斉藤楽器店　〒4—3712

暮らしの中に聴くこと弾くことをどしどし取り入れましょう。弾く趣味にはエレクトーンが最適。トーンレバーやエフェクトレバーを使って創造的な楽しみを味わって下さい。機種は入門者用から専門家用まで多彩です

B-6D ＝＝＝＝＝＝ ¥200,000
B-10A ＝＝＝＝＝＝ ¥260,000

YAMAHA

日本楽器札幌店
札幌市中央区南3西4 エイトビル
TEL 281—6111

ヤマハエレクトーンは、
あなたを弾き手に変えます。